

和歌山県農業信用基金協会

1.和歌山県の気候・風土・文化について

和歌山県は、近畿の最南端に位置し、北は大
阪府、東は奈良県と三重県に接し、西は紀伊水
道を挟んで徳島県と向かい合い、南は太平洋に
面しています。県土の7割以上が山林であること
から、古くは「木の国」と呼ばれ、転じて「紀の国」
「紀州」とも言われていました。有名なものでは
「紀州徳川家」と呼ばれていたように、現在でも
企業や交通網の名称に名残をとどめています。

現在、県の人口は 9市6郡20町1村で約93万
人、JA数は8です。県外転出や出生数の低下か
ら、昭和60年の108万人をピークに減少傾向で、
全国で40番目となっています。

県内は大きく北部、中部、南部の3地域に分類
されます。それぞれの地域に複数の河川が流れ、
河口付近の平野部を中心に市街地が形成されて
います。

北部は、県人口の約4割を抱える和歌山市を
中心に、政治・工業・商業の中心地です。文化面
では、北東部の高野山に、弘法大師空海によって
816年に開創された高野山金剛峯寺(高野町)が
あります。真言密教の修行道場として開かれて

1,200年余り経過し、宗教都市を形成
しています。2004年に世界遺産「紀伊
山地の霊場と参詣道」として登
録されたことから、県内外
の観光客にとどまらず、
外国人観光客の人気観
光地ランキングの上
位に位置し、人気
を集めています。

中部は、有田みかんを筆頭に、平地・山地を問
わず柑橘系の生産が多数を占めています。海岸
部はリアス式海岸で、石灰岩で形成された白色
の風景は日本のエーゲ海と言われています。

南部は、温暖な地域で、白浜温泉(白浜町)を
中心に関西のリゾート地として人気の観光地と
なっています。また、白浜温泉にほど近いテーマ
パーク「アドベンチャーワールド」は、パンダ飼育
数が7頭と日本一です。県内唯一の空港である
南紀白浜空港は、羽田空港間で直行便が就航し
ており、関東圏からのアクセスも容易になってい
ます。



和歌山県発祥のもの



じゃばら(北山村)

みかんと同じ柑橘系の果
実で、「邪(気)」を「祓う」と
いう意味があります。花粉
症に効果があると言われ、
主にジュースやゼリーなど
に加工されています。



高野豆腐(高野町)

真冬の夜、お坊さんが
屋外に誤って落とし
た豆腐が一晩冷え固
まり、翌日試しに食
べて見たことが起源
と言われています。



鈴木姓(海南市)

全国に約180万人い
る「鈴木さん」は海南
市の藤白神社が起源と
され、海上交通を通
って、東海・関東へ
広まったとされてい
ます。



蚊取り線香(有田市)

有田市出身の上山英
一郎が1890年に発
明。妻のアイデアよ
り燃焼時間が長く、
かつ嵩張らない渦
巻き型のデザインに
なりました。



醤油(湯浅町)

鎌倉時代、興国寺に
伝わった金山寺味噌
の製造工程でできる
上澄み液が醤油の原
型と言われています。



鯉節(印南町)

17世紀半ば、印南
町の漁民が鯉の保存
方法として考案。当
初は熊野節として人
気呼び、その後土佐
藩や薩摩藩などに
製法が伝わりました。

2.和歌山県の農業について

本県の農業の特徴は、農業産出総額1,116億円(平成28年)のうち、果樹が702億円と約7割を占めていることです。和歌山と言えば「みかん」「梅」を思い浮かべる方が多いと思われませんが、それぞれの生産量は日本一で、特に「梅」は全国生産量のうち65%を占めています。これ以外にも生産量で「柿」が全国1位、「すもも」が全国2位、「キウイフルーツ」が全国3位、「桃」が全国5位、樹園地の面積が全国3位であることから分かるように、果樹に特化した農業生産を行っています。

一方、畜産関連が低調で、「乳用牛」と「豚」の飼養頭数は最下位、「肉用牛」の飼養頭数は東京、大阪に次いでワースト3位となっています。そのため、県は「熊野牛」と「紀州和華牛」の2つの和牛ブランドを打ち立て、肉用牛の振興を図っています。中でも「紀州和華牛」は、みかんジュースの搾りカスや醤油の搾りカス等といった食用には向かない残り物(エコフィード)を飼料として与えています。これにより、脂肪交雑を抑えた牛肉の生産を行うとともに、食品リサイクルによる資源の有効利用や飼料自給率の向上等を図っています。

3.和歌山県農業信用基金協会の概要及び活動

当協会は、理事11名(うち常勤1名)、監事2名、職員15名(うち信連出向者3名)により、総務部総務課、審査部審査課、管理部管理課の3部3課体制で業務を行っています。

保証業務では、近年は他保証会社との競合により、生活資金の保証シェア率が6割まで落ち込みました。これを受け、当協会は「保証シェア率8割奪取」をスローガンに掲げ、保証要項の見直し、保証料率の優遇キャンペーンの実施、月1回の全JA訪問、ネットローンの導入等により、現在では8割程度まで回復しています。また、農業資金では、最大1000万円まで運転資金として利用できる当座資金の新設、JAバンク和歌山の保証料全額助成制度などにより、保証残高は堅調に推移しています。

債権管理では、今後、増加が懸念される代位弁済の抑制のため、一部の延滞案件について期限の利益の喪失前に被保証者・JA・当会(審査

部・管理部)で面談を実施し、条件変更・代位弁済の両面から案件を検討する取組や、当座貸越資金(随弁型)で元加のみで残高が増加している案件について、期中管理の参考として、年2回JAに情報提供を行っています。また、回収においても夜間・休日の集中督促の実施やSMS督促(サービサーを利用したショートメール督促)利用等を行い、より効果的・効率的な対応を検討し取り組んでいます。



和歌山県協会の役職員の皆さん